

予言の自己成就：目標を宣言すること

2019年12月9日 小槻峻司

今回のテーマは、「予言の自己成就」です。マックス・ウェーバーの論じた「プロテスタントの倫理と資本主義の精神」は、名前だけは知っておいて下さい。キリスト教・プロテスタントの一派に予定説を信じるカルヴァン主義があります。何故、カルヴァン主義から資本主義に繋がったのか、という議論です。予定説は、その名の通り「運命は既に神様に決められている」という考え方です。この当時の、ニュートン力学成立に伴う機械論的自然観（ラプラスの悪魔；宇宙の始まりの時点で、全ての未来は決定されているという考え方）も下地となっています。運命がもう決まっている。「だから、勤勉に働こう」と「だから、怠けもいや」はどちらも成立します。しかし、敬虔なプロテスタントはこう考えました。

1. 神は、私が儲かると事前に知っていて、その運命も決まっている（予定説）
2. だから、儲かると仮定してビジネスを試みよう（アブダクション・予言）
3. 神は、私が失敗するという事も選択できた筈だが、現に私は儲けている（結果）
4. だから、私が儲かったのは神の恵みであり、見えざる手の現れである（自己成就）。

また、禁欲的なキリスト教では本来、利息・利潤を得ることは悪徳ですが、予定説により運命を信じることで、この背徳感を乗り越えることが出来たのだと思います。

さて、ここで大事なのは2点目で、「仮定して何かをやってみる」事です。これは、推論形式としてはアブダクションと呼ばれます。これも面白いので、別の機会に紹介したいと思っています。「何かを仮定して、信じて始めて PDCA を回すと、結果としてその予言が実現される」のです。この考え方は、どこにでも援用できます。プロ野球選手であれ、小説家であれ、研究者であれ、起業家であれ、あなたの「成功」は誰も保証してくれません。「まず自分がうまくいくと仮定・予言して、信じてやってみる」しかないんです。そして信じて行動すると、結果が伴ってきます。自己洗脳と言っても良いかもしれません。

人の目標の立て方には、2つのパターンがあります。一つはボトムアップ的方法で、「今の自分の能力から、次はこれを目標にしよう」という考え方です。もう一つは、トップダウン的思考で、「目標を設定して、そのために今はこんな努力をしよう」という考え方です。私の見る限り、世の中で活躍している人の多くは、後者的な考え方をしています。この営みも、予言の自己成就と視ることが出来ます。

何かを考えるとき、目標を宣言して始めるのは非常に効果的です。まず、宣言することで退路が断たれます。他人が見ていなくても、自分が他人に見られてるって感覚になります*。今回始める月1回のメッセージも、同じ考え方で最初に宣言しています。しかし目

標が何であれ、何かを始めると、必ず楽しくなってきます。そして目標が何であれ、成功には一定期間、成長を感じられない期間が必要です。受験勉強を始めても、成績が上がるまでに時間が掛かったのではないのでしょうか？その期間を乗り越えるためには、目標宣言・予言を行い、信じてやってみるしか無いのです。自分がまず信じるんです。

余談ですが、目標宣言時に「～プロジェクト」と自分で名前を付けると、より楽しくなっておススメです。この月1メッセージ・プロジェクトを私は“**Monthly Kotsuki Review** プロジェクト”と呼んでいます。この目標宣言が自己成就されるか否か、成否の審判は未来の私自身です。今の予想ですが、読みましたよって声を聞く様になって、嬉しくなって、更に重ねてって感じで、勝手に歯車が回り始める気がしています。何かを始めたい時、プロジェクト宣言を是非試してください。私に宣言してくれるなら、是非、聞かせて下さい。

参考図書：

橋爪大三郎・大澤真幸「アメリカ」

*功利主義を唱えたジェレム・ベンサムのパノプティコンがこの考え方です。例えば今、誰も見ていなくても私たちはゴミをポイ捨てしませんよね？それは、道徳という他人の目が私たちの中にあるからです。道徳とは、市民の「幸福を最大化」するために社会の要請から生まれた概念です。ニーチェのルサンチマンの議論とも重なりそうです。また今度。

追記 2019/12/17

・早速、隣の研究室の学生さんに「読んでます」と言われて嬉しかったです。励みになるので、フィードバックを含めてコメント頂けるととても嬉しいです。